

ブドウの有望品種

『マスカット・デューク・アモーレ』

別名『甘太郎』



マスカット・デューク・アモーレ。栽培条件によって着色に変化がある

育 成の経過

一九九六年に登録したブラック三尺は、純欧州の黒色大粒の超巨大房である。

ところが、香りが無いために、マスカットの香りを加えようと考へ、昭和五十八年、マスカット・オブ・アレキサンドリアを母にブラック三尺を交配した。

その実生多数の中から、果粒の外観、食味の優れた二個体を選抜、食味抜群で豊産、外観のよい一つを「マスカット甘太郎」と命名し、平成七年に登録申請した。

しかし、「甘太郎」という名称は既にトマトに同名の登録があったため、改名を余儀なくされ、平成九年、「マスカット・デューク・アモーレ」と命名して品種登録した。

品 種の特徴

木の性質

純欧州系二倍体ブドウのため、

栽培条件によって 着色が変わる



雨よけハウス
黄緑色



雨よけハウス
淡黄緑色、8月中旬より収穫可、9月におよんでも色の変化なし

生育期間中は、日照時間が多く、雨の少ない温暖な気候が適する。日本では、生育期間中に、多雨多湿で病害虫の発生が多いため、雨よけ栽培が好ましい。若木時代は枝が徒長的によく伸びるが、結実良好で盛果期に早く到達し、樹勢も早めに落ち着く。

病気以外の管理は、ベリーーA並みと思われつくりやすい。葉の大きさは、中位・三片葉、葉柄が長くて立つ。副梢の発生は少ないが、二番果がつきやすい。

花穂や実のつき具合

花穂の着生は、容易で多い。はなはだ大きく、開花期三〇〜四〇cmにもなる。岐肩の多い円錐形で、複穂がある。結実は良好で、巨大房でも花振るいは少ない。

果粒の特徴

熟期は露地雨よけで、ピオーネと同じ八月下旬頃からで、随霜期においても食味の変質はほとんどない。

粒形は短い楕円形で、マスカット・オブ・アレキサンドリアに似ている。大きさは種ありで一〇〜一四g、種無しで一三〜一六g、最大は二〇gを超え長楕円形になる。

色は桃赤色で、直光から散光型、日較差が大で、夜温の低いほうが促進され、熱帯夜が続くと着色不良になる。

糖度は非常に高く、二〇度を超える。果皮は薄く、剥皮困難で裂果はない。肉質はシャキッとして皮ごと口に入れると弾けるような歯ざわりと舌触りで、マスカット香と独特の旨味が口の中に広がり、食味抜群である。

栽培上の注意事項

樹勢調整

若木は、樹勢が旺盛でよく伸び、樹冠の拡大が早い。地上部、地下部のバランスを考え樹冠の拡大を急がない。施肥は少なくし、土の物理性の改善を中心にした土づくりが大切である。

枝梢の管理

結実樹では棚を明るくし、着色条件をよくすること、果実に水が回る頃以降は、摘心で成長点の活動を極力抑える。

花穂の管理

▼種なしの場合

花穂は甚だ長大で、開花前の整形は必須である。

本葉八〜一〇葉期に一枝一房にし、副穂を切除する。残す穂は、可能な限り果梗が下向きの第二花房が好ましい。

あわせて、マイシン一・〇〇〇倍液を花穂中心に散布する。開花が近く、岐肩がばらける頃、さらに、岐肩二〜三段残して房の主軸を切除する。

この時期が早いと枝に養分が行ってしまい花穂の発達が劣る(三ペーシ写真)。

早い花穂の開花が始まる直前、岐肩の長さ五〜六cm以上のもの一つを選び、ピオーネのシベリン処理と同様の整形をする。または、二つの岐肩を残し、他を摘む。袋かけの都合で、最

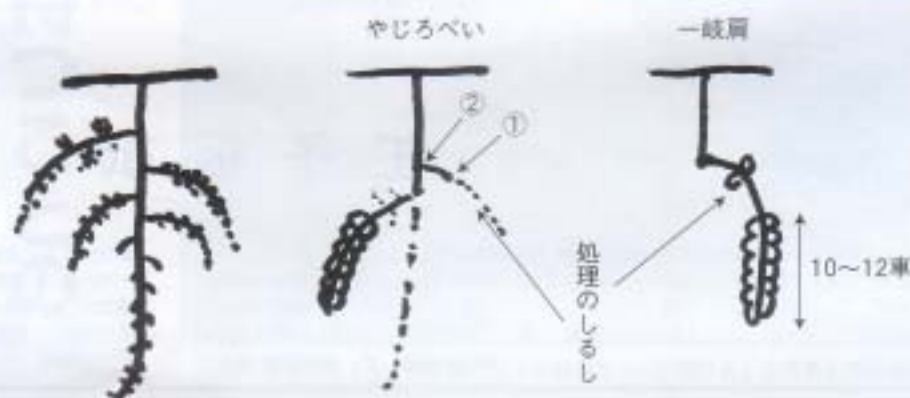


図1 ジベレリン処理前の整形

上の岐肩は穂梗が短すぎる場合がある。(図一)

▼第一回ジベレリン処理

開花終了直後ジベレリン一・二・五ppmに殺菌剤を加えて浸漬処理、マイシン処理期におくれ穂があれば、さらに、マイシン一〇〇〇倍加用する。ついでにキャブトールを加えると、花冠はきれいに落ちる。

処理は日中を避け、乾きにくい湿度の高まる夕方が、ハウスなら散水してから処理する。ただし、ハウスで葉に露滴が生じている場合は避けたほうがよい。

肥大処理

一回処理後、約二週間頃、ジベレリン一・二・五ppmに殺菌剤を加用して処理。フルメットは使用しなくてもよいが、加用した方が肥大が良いという人もいる。

結果量の調節

一房平均五〇〇〜六〇〇g、房数一〇a当たり三・五〇〇房、二t程度とし、高品質を保証、高単価を確保する。おおむね一結果枝一房とし、弱い枝にはな

らさない。そのため、ジベレリン処理前に穂数を調節し、樹勢が強すぎれば、一房も考えられるが、着色期直前の六月下旬頃には一房にしたい。

着色促進

着色しにくいため、紫外線カットフィルムや袋の紙質で着色させない青ブドウとすることも提唱されているほど、着色は香や食味にほとんど影響を与えない。無加温ハウスが着色しにくく、加温は比較的結果過多を除けば良好、露地トンネルでは高冷地が良好のようである。

当面、棚を明るくし、結果過多を避け、淡紅色は確保し、気品のある外観にすることが大切である。

病虫害防除

高糖のため収穫が遅れると、晚腐病が出やすい一方、純欧州系のため、病気に弱い。したがって雨よけ栽培をし、発芽前から結実期の間に初期防除を徹底する。

花澤茂ノ花澤ブドウ研究所長